ぎふの教育

岐阜県教育懇話会
〒503-0023
大垣市笠木町229-5
(0584)91-2478
口座番号 00800-3-5390

巻頭言　蒲生君平没後二〇〇年記念

# 蒲生君平著『山陵志』と明治維新
## ―令和の皇位継承に関連づけて―

蒲生君平研究家・博士(文学)阿部邦男

今年令和5年（二〇二三）は、蒲生君平（以下君平と略称）没後二一〇年に当たり、その3月に講演の機会を与えて頂き感謝申し上げたい。

筆者は高校時代、宇都宮市内の史跡巡りをする中で、君平を祭る「蒲生神社」由緒書の文字の剥落を見て、戦後GHQの「日本弱体化政策」の影響が君平の評価にも及んでいる事を痛感し、君平の再評価を志した。

君平は、明和5年（一七六八）宇都宮に出生し、文化10年（一八一三）7月5日江戸で病没した。先祖の蒲生氏郷にあやかり、福田姓を蒲生姓に改姓。諱を秀実、字を君臧・君平、通称を伊三郎、修静庵と号した。

儒学者鈴木石橋、黒羽藩家老鈴木為蝶軒、儒学者山本北山、昌平坂学問所主宰林述斎を師と仰ぎ、見識を高める。石橋のつてで藤田幽谷と知り合い、以後親交を結ぶ。

生涯に山陵考究書『山陵志』、官職考究書『職官志』、国防提案書『不恤緯』、政治改革書『今書』、歴史分析書『皇和表忠録』、婦徳紹介書の翻訳書『女誡国字解』を著わす。

遺稿集として、茅根成編『修静庵遺稿』、県信緝編『蒲生君平遺稿』、栗田寛編『修静庵遺稿拾遺』、高浜二郎編『浦生君平遺稿拾遺』を数える。

君平伝に、藤田幽谷撰「蒲生君臧墓表」、滝沢馬琴著『蒲の花かつみ』、栗田寛著『蒲生君臧事蹟考』、重野安繹撰「贈正四位蒲生君平碑」がある。

そして、林子平・高山彦九郎と共に「寛政の三奇人」と称される。

今回は、君平の著書『山陵志』が明治維新に果たした功績を探りたい。

まず、寛政元年（一七八九）7月4日付藤塚式部宛彦九郎書簡により、その時期に既に「山陵之荒廃」に強い関心をもっていた事がわかる。

『山陵志』撰述の志は三段階となる。

第一段階。寛政9年7月20日付鈴木為蝶軒宛君平書簡に、水戸藩『大日本史』「志類」への編入を目指していた事が記される。

第二段階。同10年正月14日付本居宣長宛君平書簡に、徳川光圀が森藩による同事業実施を目指したとみられる。

最終段階。文化4年（一八〇七）の「与長谷川進物書」に、小納戸役の幕臣長谷川進物を通して『山陵志』原稿本の幕府の奥儒者柴野栗山への呈示を依頼し、幕府による同事業実施を期待したと考えられる。

『山陵志』撰述に当たり、山陵調査を目的とする、(1)寛政八年（一七九六）11月～翌同9年7月19日、(2)同12年正月～5月24日の西遊（上京の事）で、同志として本居宣長・竹口栄斎・堤広庵・覚峰上人・若槻幾斎・小沢蘆庵・畠中頼母・泰深上人の協力で、短期間で充実した調査を果たした。

同書は、調査結果を基に確実な山陵を取り上げ、君平の「律」に対する歴史的見識、古墳の変遷、「前方後円」墳を名付けるという考古学的見識が凝縮され、93陵が地域毎にまとめられ享和元年（一八〇一）脱稿した。

文化5年（一八〇八）に百部出版された反響は大きく、幕府からは二度の尋問、十部提供した公卿萩原従言から光格天皇の弟君聖護院宮盈仁法親王を経て、光格天皇の天覧を得た。

実際の動きとしては、藤田東湖書「回天詩史」に示される如く、同書に触発された水戸藩主徳川斉昭が天保年間（一八三〇～四四）に三度建白した。

結局聴許されなかったが、光格天皇崩御を機になされた二度目には、従来の院号から以後の正式な御諡号の授与が許される前例となった。

事業実施は宇都宮藩で、文久2年（一八六二）正月の坂下門外の変で窮地に立った藩の打開策として、君平の志を体した藩の重臣県信緝により提案され、同年閏8月8日建白、同14日許可された。山陵奉行に任命された藩の筆頭家老戸田忠至を中心に同3年5月～慶応元年（一八八五）12月に実施され、総計二二万七五六九両をかけて約80陵が修復された。

慶応2年（一八六六）12月25日孝明天皇が崩御されると、御葬送御用取扱に任命された戸田忠至が、幕府の承認を得て古制に則り高塚式山陵の築造に奉仕し、以後それが踏襲された。

令和の皇位継承で参拝された神武天皇陵と昭和天皇以前四代の天皇陵には、君平が『山陵志』に込めた志が深く関わっていたといえよう。

勅旌碑は、明治天皇が君平の功績を認め建立を命じられたものである。

（宇都宮市公立中学校社会科教員・副校長（教頭））

させた「山陵修補事業建白書」の存在を知り、水戸

## 綱領

一、われわれは歴史と伝統を尊重し、日本にふさわしい中正な教育を推進する
一、われわれは教養と品位の向上につとめ、真理愛の精神とともに、明るく純粋な教育を研修する。
一、われわれは個人の自主尊厳を尊重しつつ、政治的中立を厳守し、主体性を堅持する。

時論

今回は昨年夏に神戸で行われた教研大会での記念講演の要旨を掲載します。
講師の願いは日本人の心身の健康と日本の再興にあります。会員の皆様の健康維持の参考になればと思います。　編集部

## 皆様の『生命の力』の倍増を！
## 「神心統一法」を通して

元陸上自衛隊西部方面総監部幕僚長・陸将　福山　隆

### 「心の荒廃」を救うのは宗教

現代社会は、経済的に豊かになり、科学技術も高度に発達し、より便利で快適な生活が実現しているが、「ストレス社会」ともいわれている。ますます激しくなる競争社会、管理社会、高齢社会化による孤独などのなかで、現代人は多くのストレスを抱えており、それが原因で「心の病」にかかる人が増えている。ちなみに、最近の自殺者数は2003年の3万4427人をピークに減少傾向にあるものの、依然2万人を超えている。

日本人の「心の荒廃・砂漠化」を改善する方策は様々あろうが、中でも宗教は大きな助けとなるだろう。欧米などのキリスト教、イスラエルのユダヤ教、中東アフリカなどのイスラム教が人々に及ぼす大きな影響に比べ、日本の宗教――主として仏教――は日本人の心を潤すには程遠いというのが現状ではないだろうか。

日本で宗教が不活発・低調なのは。第一にソ連など左翼勢力の影響で、「宗教はアヘン」と見る共産主義思想の唯物史観に汚染されたこと、第二に戦後の経済発展とそれに伴う社会福祉などの充実により、日本人の貧困状態が改善され、「生・老・病・死」の四苦が相当に緩和されたこと、第三に人々が「人の死」と向き合う場面が減ったからだと思う。戦前は、自宅で死ぬ人の割合は約9割で、医療機関（病院）で死ぬ人の割合は1割程度だった。それが、今日では逆転し、自宅で死ぬ人の割合は1割で、医療機関（病院）で死ぬ人の割合は9割になった。身近な人の死の看取る機会が激減したことが、宗教の衰退につながるのではないだろうか。

地下鉄サリン事件の除染に直接かかわった私は、「日本国民はオウム事件を契機に、真剣に宗教と向き合うこと、すなわち宗教・信仰心の復興が急務である」と考えるに至った。

日本人の「心」の「砂漠化」を改善することに関しては、日本宗教界の責任は重い。宗教界は日本人の「心」の救済に立ち上がるべきだろう。この問題は、宗教界だけの責任ではなく、国民的な課題でもある。

その“処方箋”として、国民も政府も「福祉予算の配分」に論議が集中している。しかし、「人はパンのみにて生きる者にあらず」（マタイによる福音書 4.4.1）という訓えを忘れているようだ。人間にとって、生きることと死ぬことに関して、心の支えになるのは究極的には宗教ではないだろうか。

日本とは反対に、世界では宗教がクローアップされつつある。冷戦構造が崩壊し「宗教はアヘン」と見る共産主義が衰退した今日では、キリスト教（カトリック、プロテスタント、正教など各派）、イスラム教（シーア派やスンニ派など）、ユダヤ教などがクローズアップされ、宗教間の軋轢が強まりつつある。この様を見るにつけ、私は「21世紀は宗教の世紀」ではないかと考えている。私達日本人も、真剣に宗教と向き合う時期を迎えているものと確信する。

そのような観点から、カトリックと中村天風師の「心身統一法」を支えとする私の「神心統一法」について紹介したい。

### 中村天風の「心身統一法」

天風財団のHpによると、〈心と体を積極化することで人間が本来持っている「潜在勢力」を引き出し、幸福で充実した人生を作り上げることができるものです。100年以上にわたり、多くの方に実践され続けてきたメソッドです〉とある。

天風は一切の万物を創るエネルギーの本源である宇宙霊（神仏に相当）と人間のかかわりを次のように説明している。

〈宇宙霊と人間は「心」で繋がっています。そのためには「人間の心が絶対に積極的な状態でなければならない」という条件が付いています。人間の心の持ち方、思考の在り方を積極的・プラスに保てば宇宙エネルギー（宇宙霊）と人間の心は相互に関係・リンクし一体化し、人間に宇宙エネルギーが作用します。このことをもっと簡単にいえば、「人生は心一つの置きどころ」ということです。つまり人生は心の持ちようがすべてを決める――ということです。〉

では、どうやって自分の心を積極的に保つか。それは、潜在意識を積極化することに尽きる。人間の意識は実在意識と潜在意識があるが、潜在意識の方が支配的である。

朝起きてから寝るまで、決してネガティブな言葉を使わず、考えもポジティブであることが絶対条件だ。さらには後で述べるような様々な手法で自己暗示を繰り返し、潜在意識を積極化する努力が必要だ。これを実践すれば、幸福で充実した人生を作り上げることができる。

天風師は「生命の力」について次

のように述べている。

〈「心身統一法」という一つのドクトリン（教義）は、健康と運命とを完全にする生命要素というものをつくることをそのプリンシプル（根幹）にしているのであります。生命要素とは何かというと、平たい言葉で申し上げると健康や運命を両立的に完成するのに必要な「生命の力」であります。私はこの力をあなた方のご理解の便宜上、六種類に分けて何時も説明しています。〉（中村天風著『成功の実現』日本経済合理化協会）

六つの力とは、〈一、体力　二、胆力（泰然自若の力強さ）　三、判断力　四、断行力（実行力）五、精力　六、能力（生命力のある人というのは自分の能力を発揮できる人のこと）〉である。

天風師は、自らがその哲学の実践者として「生命力」を十分に発揮して生きていた。

**私の「神心統一法」**

宗教が低迷し信仰心が衰退しつつある現状において、それぞれ個人の宗教と「心身統一法」を融合させる私の「神心統一法」により、宗教・信仰心を復興させると同時に、人々の「生命の力」を強化することによって混迷を深める日本に極めて重要だと思う。その普及により、宗教・信仰心が復興されると同時に天風師の「心身統一法」にも新たな展望が開けてくるのではないかと思う。

松本幸夫氏は『中村天風伝』（総合法令）の中で「天風哲学は、常に進化・向上していく教えである」と述べている。「心身統一法」を、新たな視点から創意工夫して継承発展させることは、天風師の遺志に沿うものである信ずる。

**「神心統一法」の時代的な意義**

生き残りの関頭に立つ日本は、今こそ「神心統一法」で国民の「生命の力」を倍増すべきだ

日本を取り巻く情勢は悪化・緊迫化の一途を辿っているように見える。その第一の原因は世界的なパンデミック・コロナ流行の長期化だ。〇〇の時点で、感染者数は▽▽人、死者は××人にも及ぶ。コロナの社会、経済に及ぼす影響は甚大である。コロナの名前の通り、世界は「心」も「経済」も「社会」もみな皆既日食に見舞われたように暗く沈んでいる。

日本においても、コロナの被害は深刻で、〇〇の時点で、感染者数は▽▽人、死者は××人にも及んでいる。コロナのダメージは戦争が長期化した様相に似ていて、社会・経済などはもとより人々の心をも蝕み限界に達しつつあるようだ。その影響とみられる悪質な放火・殺人事件などが増加している。

二つ目の原因は米中覇権争いである。軍事力において台頭著しい中国・習近平は米国への挑戦を敢行している。中国は台湾への侵攻をも公言しており、その場合は日本も戦闘に巻き込まれるのは必定だろう。核兵器を手にした北朝鮮も矢継ぎ早にミサイル実験を繰り返しており、我が国に対する脅威は刻一刻と高まりつつあり、このままでは「日本が沈没しかねない」恐れがある。

三つめはウクライナ戦争だ。最悪の場合は第三次世界大戦にエスカレートする恐れがある。また、欧州の戦火がアジアに飛び火し、中国の台湾・尖閣侵攻があるかも知れない。

このような最悪の環境下で、私は、生き残りの関頭に立つ日本の起死回生の“妙手”として国民が「神心統一法」を実践することを期待したい。

このような中、日本では少子高齢化が加速し、社会・経済が沈滞化しつつある。日本は「起死回生」の政策を考えなければ将来を拓くことはできないだろう。

私は、生き残りの関頭に立つ日本の起死回生の“妙手”として国民が「神心統一法」を実践することを期待したい。

「神心統一法」―あなたの宗教と天風の「心身統一法」の融合―の普及により天風の言う「生命の力（人間力）」を強化することである。打ち沈んだ一人一人の人間の心を活性化できれば、「個人の幸福をかなえる」と同時に「1億個民の『生命の力（人間力）』力を倍増（＝2億人力）」することができる。「神心統一法」により日本人の「生命の力（人間力）」を倍増することこそが、経済の停滞も、安全保障の強化も図ることができるのではないだろうか。

天風の教えが、戦後の復興に寄与したように、日本の閉塞状況を打開するためには日本人の「心」を変革する必要がある。

天風は人の「心」と「体＝身」を統一することを目指したが、私はそれをさらに「神（仏）」（天風の「宇宙霊」ではなく皆様の「具体的な神（仏）」）と「人の心」を統一することを目指している。

日本人の打ち沈んだ「心」を活性化するために「神心統一法」を活用すれば、財政投資は1円も必要なく、日本を抜本的に強化できる。

私の終生の目標は、微力だが「神心統一法」によって、多くの悩める方々を勇気づけ、その人生を強く幸せにすることである。

「神心統一法」は未だ完成の途上にある。私自身を実験台として倦まず弛まず改良・工夫を重ねて参りたい。

（文責　編集部）

岐阜県教育懇話会第六代会長

# 後藤悦男様追悼特集

昨年十二月一日、元会長の後藤悦男様が逝去されました。満九十歳でした。

後藤元会長は、平成十三年七月に第五代会長田中康義様の逝去に伴い会長を引き継いでいただき、後藤孵卵場の社長を退かれるまで、九年間の長きにわたり会長を務めていただけました。機関紙にたびたび寄稿をされ、会の活動を引っ張ってもらえました。左に掲載された主な御文章のタイトルを列記し、在りし日のご活躍を偲びたいと思います。編集部

**資料「後藤悦男元会長の寄稿文」**

92号「昭和天皇陛下の御徳に感謝報恩の誠を捧ぐ」平成元年六月
93号「高校生の国際研修旅行と国際交流の成功に感動して」同十二月
104号「高校生の海外研修への支援」平成四年十二月
109号「四つの生活信条」平成六年五月
111号「戦後五十年日本の復興に想う」平成七年二月
124号「国際人として活躍をめざす高校生への希望」平成十一年九月
131号「〝心の教育〟の振興を」平成十四年六月（この号より会長として）
135号「名誉県民土屋斉様に感謝報恩の誠を捧ぐ」平成十五年十一月
137号「長谷虎治様に報恩感謝の誠を捧ぐ」平成十六年五月
139号「日本教師会冬季研修会歓迎挨拶『正しい心の育成を』」平成十七年二月
143号「岐阜県教育懇話会・岐阜県教育振興会の事業協力に感謝を捧ぐ」平成十八年三月
144号「中部事務機（株）会長辻欣一様に感謝報恩の誠を捧ぐ」平成十八年九月
145号「日本教師会冬季研修会への期待」平成十九年三月
150号「正直で正しい人間教育」平成二十年十月
152号「今上天皇御即位二十年を寿ぎ天皇皇后両陛下御成婚五十年をお祝いします」平成二十一年六月
157号「国際人として活躍せんとする大学生へ」平成二十三年三月

## 〝誠に生きた人〟

### 後藤悦男先生を悼む

岐阜県教育懇話会理事　後藤章嘉

後藤孵卵場前社長後藤悦男先生は常に「日本人はどうあらねばならないか」を言動の起点にされた。

先生との出会いは今から半世紀ほど前になるが、県高等学校ＰＴＡ連合会長であられた時、関市内の中学校へ講演をお願いしたことによる。米国アイオワ州立大学に留学経験のある先生は、当時のケネディ大統領とキング牧師の二人を例に「国家への貢献」と「民族の誇りとまごころ」を人生の指針としなければならないと話された。

古里を愛し、皇室を無二の宝と貴ばれ、孵卵場の社是「今日も多くの人のお役に立ちますように」のままに生きられた先生。長きにわたって薫陶をいただけたことに感謝しつつ、そのご恩に報いるためにも、先生の教えを胸に生きていきたいと思う。

### 後藤悦男元会長の逝去を悼み
### 報恩感謝の誠を捧げます

前事務局長　橋本秀雄

元会長は実に謙虚でやさしいお人柄であった。西野町の後藤孵卵場本社を訪れると、椅子から立ち上がり、合掌をして迎えて下さった。

会の進行状況やお願い事を、よく聞いて、後押しをしていただけた。

しかし、ご自身の考えを示される時は丁寧に確信をもって語られた。本会発足当初から身近におられただけに、趣旨をふまえてのお言葉であった。御文章を見ると、「報恩感謝」という言葉が目にとまる。人や物事に対して常にこの姿勢であられたのだ。私も元会長からいただいた多くのご恩に報い感謝を申し上げたい。

---

**微風列風**　江戸時代の武士は剣術修行のほかに様々な職務についていた。勘定奉行はいまの財政、町奉行は警察、代官は出張所長、町奉行の部下は検事と裁判官を兼ねた与力、刑事は同心といいます。このような組織は、呼び名は違いますが、いつの時代にもありました。これを基礎にして明治維新後に西欧の制度、文物の取り込みができたのです▲武士は支配者であり遊んで贅沢をしたという教え方は誤りです。これは共産主義の支配する者とされる者の理論をあてはめて労働者は政府、経営者を打ち倒せと呼びかけるための方便です。明治の市民平等は武士の特権である戦う権利を国民が得たのです。先進国の欧米で市民が戦うと誇らかにいう理由がここにあります▲明治以降の文学は封建制度下の人情を否定しました。芥川は芭蕉の死に際して、弟子がニコニコしている姿を描いてその心は、これで自分にあれこれ言う鬱うしい者がいなくなったと。また、先生に死に水を進められても後ずさりする弟子の心を、死を間近にした芭蕉の肌が土色に変わっていくのにおののいたと綴ったのも誤りです▲時勢という時の流れに乗って、時勢が変わると慌てふためくのか、一念をとおすのか、子供への影響はかり知れないものがあります。Ｙ